

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 峰重隆幸

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

私の教育の責任範囲は、獣医学科における病理学の教育全般である。

専門は獣医病理学だが、臨床医としての経験を活かし、学生が実践的な診断スキルを習得できるように指導している。

国家試験に直結する知識を体系的に指導し、病理診断を通じた臨床能力の向上を図る。

また、実習を通じた症例ベースの教育や研究室指導を行い、学生の診断力と問題解決能力を養うことを目指す。

さらに、ICTを活用した学習支援を実施し、教育の質向上に努める。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医療倫理・動物福祉	獣医学科	必修	2	137
獣医病理学総論	獣医学科	必修	3	148
獣医病理学各論Ⅰ	獣医学科	必修	3	138
獣医病理学各論Ⅱ	獣医学科	必修	4	148
獣医病理学実習Ⅰ	獣医学科	必修	4	139
獣医病理学実習Ⅱ	獣医学科	必修	4	149
基礎・小動物獣医総合臨床Ⅱ	獣医学科	必修	4	140
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	150
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	130
総合獣医学	獣医学科	必修	6	175

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

私の教育理念は「楽しく学ぶこと」「国家試験に合格させること」「病理と臨床の橋渡しをすること」の3点である。

理念① 楽しく学ぶこと

獣医学は習得すべき知識が膨大であり、学習の継続にはモチベーションが重要である。楽しく学ぶ環境を提供することで、学生の主体性を引き出し、知識の定着を促進する。興味を持ち、能動的に学ぶ姿勢が獣医師としての成長に直結すると考えている。

理念② 国家試験合格を支援すること

獣医学科の学生にとって、国家試験はキャリアの第一関門であり、これを突破することが最優先となる。

単なる試験対策にとどまらず、合格後に臨床現場で即戦力となれる教育を提供することが重要である。

理念③ 病理と臨床の橋渡しをすること

病理学は診断の根幹を担うが、学生にとって臨床との関連が見えにくいことが多い。実際の症例を基に、病理学が診断や治療の判断にどのように貢献するのかを示し、臨床医が病理を活用できるよう指導する。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

代替臓器を用いた学生実習：豚の皮膚を購入し、犬猫の皮膚検査のトレーニングツールとして活用する実習を実施。これにより、検査手技の習得を効果的に促進。

研究室教育の実践的アプローチ：実際の症例の情報を匿名化し、臨床病理・病理学・画像診断などの多角的な視点から診断を行う「伴侶動物診断ゼミ」を実施。

最終的に病理組織で診断を確定することで、より実践的なスキルを習得できるようにしている。この手法は学生から高評価を得ている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

実習および講義において、学生が受動的に知識を受け取るのではなく、自ら考え、発言し、議論することを重視したアクティブ・ラーニングを実践している。

ディスカッション顕微鏡を用い、学生同士が病理所見について意見交換を行う機会を設けることで、観察力および論理的説明能力の向上を図っている。

また、症例情報を匿名化した上で提示し、臨床情報、画像所見、病理所見を統合して診断に至るプロセスを学生自身に考えさせる授業構成としている。

(2) ICTの教育活用

有

ICTの活用として、国家試験対策を目的とした学習支援アプリケーションを開発、運用している。さらに、皮膚検査手技などの実習内容について解説動画を作成し、授業外においても反復学習が可能な学修環境を整備している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

従来、個別に扱われがちであった臨床診断と病理診断を連携させた教育方法を導入し、診断思考の一連の流れを重視した授業改善を行っている。

(2) 学生の理解度の把握

A

定期的にクイズ形式の理解度チェックを実施し、フィードバックを行う。
学生の質問内容を分析し、授業の進行を調整することで、難易度の最適化を図っている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

開発したアプリケーションは、国家試験で頻出のテーマをカバーしており、学習効果の向上に寄与すると考えている。

皮膚検査動画の活用により、実習外でも繰り返し学べる環境を整備した。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

メールでの質問受付を導入し、より柔軟な対応を可能にしている。

(5) 双方向授業への工夫

A

ディスカッション顕微鏡を活用し、学生同士で所見を議論。発表とフィードバックを行う。症例ベースの討論を実施し、臨床データ・病理所見をもとに診断プロセスを考えさせる。研究室ゼミでは、学生が実際の症例をプレゼンし、質疑応答を通じて理解を深めている。今後はより学生からの発案を伸ばす環境を整備したい。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

過去問の解析を行い、頻出テーマの重点講義を実施。
今後、自分の指導が適切であったか、検討する必要がある。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

総合獣医学講義に関する学生アンケート結果において、実施した講義は「総合獣医学で学修効果が高いと感じた授業」の一つとして選択された。
既存の講義構成や症例提示方法を維持した上で、教材内容の整理と表現の明確化を行った。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

講義内容の整理と補足資料の見直しにより、授業内容の一貫性が向上した。また、既存の学習支援アプリを更新し、講義内容と対応した復習が可能な学修環境を整備した。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

次年度も、授業評価アンケート結果を踏まえつつ、講義構成のブラッシュアップを継続する。併せて、学習支援アプリの内容更新を行い、講義内容との整合性を維持する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学修成果の向上に資するツール（アプリ・動画）を提供し、授業内容および国家試験範囲の整理を行った。研究室教育では、臨床で即戦力となる診断能力の向上を重視し、実際の症例を活用した実践的な学びを提供した。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

授業資料の更新については、授業評価アンケートにおいて良好な評価を受けている。特に、資料構成の整理や内容の明確化が、講義内容の理解に寄与したとのフィードバックが得られた。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

FD研修には積極的に参加し、教育手法の向上に努めている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

短期目標（1年以内）：

授業評価アンケートを活用し、授業改善を実施。

アクティブラーニングをさらに発展させ、学生の能動的な学習環境を強化。

臨床と病理の連携を強化し、統合的な診断教育を推進。

長期目標（5年以内）：

国家試験の合格率向上を支援し、臨床現場で即戦力となる獣医師を育成。単なる試験対策にとどまらず、診断能力や実践的なスキルを強化し、臨床の現場で即応できる教育を目指す。これにより、動物医療の質を向上させ、より高度な診断・治療を提供できる獣医師を育成することを旨とする。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

シラバス、授業スライド、配布資料、国家試験対策アプリ・学習支援動画